

WEL・NET

通信



- @家(あっとほ~む)動画
- 生活動作のエキスパート! 介護福祉士
- 朋和会ニュース・研究実績・清掃チームのご紹介

2022.11

発行日 令和4年11月25日
発行 西広島リハビリテーション病院
事業局
☎ 082-921-3230 (代表)
URL <https://www.welnet.jp>
E-mail wel@welnet.jp

WEL・NET 通信は、西広島リハビリテーション病院の地域リハビリ・地域連携に関わる活動をご紹介する広報誌です



ホームページリニューアル!!

秋晴れのもと、ホームページリニューアルのための写真撮影を行いました。
※ 撮影時のみ、マスクを外して撮影しています。

患者さん向け無料 Wi-Fi サービス開始!!



病室や食堂で無料 Wi-Fi サービスをお使いいただけるようになりました。





西リハ訪問リハビリ
ステーション 所長
理学療法士
本田 賢次郎

@家 (あっとほ〜む) とは?

訪問リハのご利用者さんやご家族の方にご協力いただき、日常生活動作の工夫や福祉用具、住宅改修の実例、介助場面の実例などを撮影して、ホームページの「西リハ情報箱」でご紹介しています。ご利用者さんの日々の生活がより暮らしやすいものとなるよう、ご利用者さん、ご家族さんと一緒に考えて悩み、自分でやってみたいと思うような動画を制作しています。

はじめたきっかけは?

利用者さんのお宅で、「なんでリュックが3つあるんだろう?」と伺ってみたら、ごみ箱としての工夫 (右参照) でした。「なるほど! これはいいアイデアだな、自分が知っているだけではもったいない! みんなに知らせたい!」と思い、そこから始まったんです。

訪問リハは、実際の生活を見ることができ、教科書通りにはいかないことを体感し、教えていただいています。それらの経験は、職員全員が知るべきだと思いました。経験の少ない新人でも知識を持っていれば、患者さんに提供することができます。退院後の生活の一番近くにいる僕たちが、その懸け橋になりたいと思いました。



あっとほ〜む

@家 動画

毎日行っている日常生活動作を「麻痺があるから」「力が弱くなったから」と諦めていませんか? 身近なものを使用した生活の工夫や方法をご紹介します。



爪切り nail clipper

100円ショップで折りたたみラック、爪切り、板を購入して製作しました。爪切りに爪を合わせて、真下に押すことで片手で切ることができます。



ゴミ箱 trash can

リュックをごみの分別ごとに複数個用意し、ゴミ箱として使用しています。ごみの日には、リュックを背負ってごみステーションへ捨てに行きます。



小歩行器 small walker

セーフティーアームウォーカーにお盆代わりの発泡スチロール板を取付けました。それによって、歩行器を使いながら、物の運搬に使うことができます。



西リハ訪問リハビリ
ステーション
作業療法士

山中 勝正

ご利用者さんとの接し方に 変化はありましたか?

生活の中で何か不便なことがないか気になるようになりました。

気をつけている点

怪我をする危険性がないかどうか。

どんなふうに役立ててほしい?

特に一人暮らしをされている方には、少しでも生活動作を楽にしていただけたいと思います。



西リハ訪問リハビリ
ステーション
理学療法士

佐藤 正志

気をつけている点

全く新しい動きや道具を使用するのではなく、今までやってきたことの延長線上で行えるように注意しています。

工夫を発見した時の気持ち

QOLを向上していただけるかも!

どんなふうに役立ててほしい?

日常生活の中で、ご利用者さん自身の労力が減ったり、やりたいことを躊躇しないように、ご家族様には介助負担が減るように役立ててほしいと思います。



西リハ訪問リハビリ
ステーション
作業療法士

野村 晶子

ご利用者さんとの会話に 変化はありましたか?

生活の細かい部分についてもお伺いするようになりました。他の方でも使用可能な方法や内容かどうか検討するようになりました。

これまでにどんな工夫を 取り上げましたか?

片麻痺の方の野菜の皮むきや釘付きまな板での包丁操作について。



西リハ訪問リハビリ
ステーション
理学療法士

新 博美

ご利用者さんとの接し方に 変化はありましたか?

ご利用者さんが「できている」「できない」と言われたことも、具体的にもう少し踏み込んで聞いてみようと思うようになりました。

どんなふうに役立ててほしい?

同じような障害のある方やご家族が困っている時はもちろん、知っているということはいずれ役に立つので、ヘーという気持ちくらいでも見てほしいです。



西リハ訪問リハビリ
ステーション
作業療法士

藤井 星良

ご利用さんとの関わり

ご利用者さん独自の生活動作を知りたいと思い、お話を伺ったり、動作を見せていただいたりしています。

どんなふうに役立てて ほしい?

同じようなことで悩んだり、工夫したりされている患者さんやご利用者さんなど、少しでも多くの方に使っていただきたいです。



西リハ訪問リハビリ
ステーション
言語聴覚士 副主任

荏原 幸恵

工夫を発見した時の気持ち

ご利用者さんがとろみつけをする際、毎回作るのではなく、大きなポットに直接水道水を入れ、菜箸で混ぜるのを見て「面白い、便利!」と思いました。とろみ液を毎回作るのが面倒、大変だなと感じている方へ知っていただきたいです。

心がけていること

ご利用者さんが困っている事や不便に思っている事を、普段の会話の中から聞き取れるようにしています。

スタッフの 反応は?



身近な100円ショップの商品で生活しやすい工夫を行えているのはとても良かった。

備品をそのまま利用するだけでなく、ご自宅にあるもので工夫しながら生活できることを入院中の患者さんにご紹介したいと思います。

具体的な方法が詳しく紹介されていて勉強になりました。患者さんへの提案も行っていきたいですし、自分でも考えてみたいと思います。

ちょっとした工夫がその人らしい生活、質の向上に繋がっていると思いました。

今後の展望は?

動画をみた他部署のスタッフが「ご利用者さんに教えてあげられる」と言っていて、そういう拡がりがないかと思いました。そして、いろいろな部署から「こんなのを作ってみた」というのが出てくるといいなと思います。これらの知識や経験を病院全体の財産として蓄積し、今後に生かしていくことが大切であると考えています。患者さんやご家族には退院後のイメージ作りに役立てていただけたらと思います。

西リハ 情報箱



西リハ
情報箱で
見られます!





生活動作のエキスパート! 介護福祉士

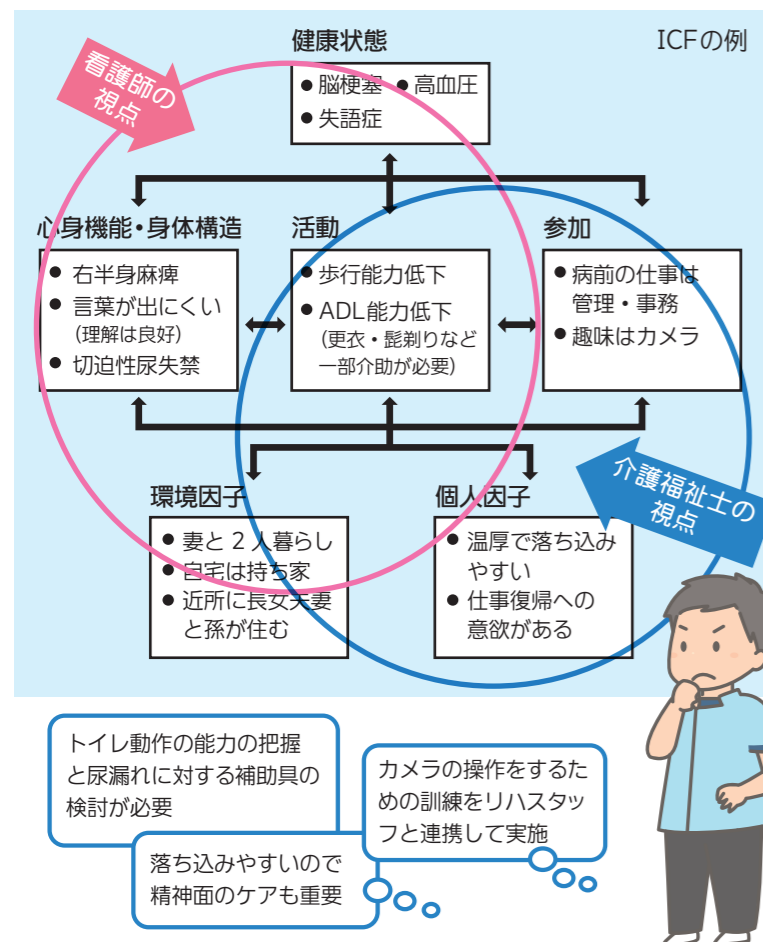
西広島リハビリテーション病院には病棟配属の介護職が27名所属し、全員が介護福祉士の資格を持っています。看護師のサポートというだけではなく介護福祉士の独自の役割をご紹介します。



本館 2 階病棟所属
介護福祉士 主任
井村 太治

ICF に基づいた 介護計画の立案

当院では、ICF (下図参照) というツールを用いて患者さんの状態を把握し、リハビリ計画を立てていきます。チームの各専門職が ICF をもとにそれぞれの部分にどのようにアプローチしていくかを検討します。看護師は主に医療的な視点から検討するのにに対し、介護福祉士は主に「参加」「環境因子」「個人因子」といった生活の視点から計画を立案します。



ここがポイント! 介護福祉士の視点

どの部分を伸ばしていくかは「活動」を中心に考えていくわけですが、どうやって伸ばしていくかは「参加」「環境因子」「個人因子」を手がかりにして考えます。例えば、カメラが趣味なので、立ってカメラを構える・シャッターを切るといった動作を練習する、奥様と2人暮らしなので、ゴミ出しと洗濯物をたたむ動作は患者さんができるようにする、などです。趣味や生活に関連付けてリハビリを行うことで、短い入院期間の中でも、その人にとって本当に大切な動作を獲得することにつながられます。

病棟生活において、私たち介護福祉士は患者さんの最も身近にいる職種と言えます。どのように過ごされているか、どんな思いでいらっしゃるのか。そうした情報をチームに伝えてリハビリに役立てるのも大切な役割です。患者さんに対しては、辛い気持ちを受け止めたり、がんばりすぎないように声をかけて支えたりといったことにも気を配っています。

多職種と連携し 生活動作の定着を目指す

ADL (日常生活動作) 改善のためには、療法士と一緒に訓練だけでなく、病棟で過ごす間の自主練習も有効です。訓練によって「なんとかできる」ようになった動作を、実際の日常生活 (入院中は病棟生活) の場面で「いつも自然にしている」動作になるようサポートするのが介護福祉士の役割です。

病棟

病棟でデジタルカメラを貸し出して実際に写真を撮ってみてもらいました。シャッターを押す動作が難しいようです。

訓練室

指先の器用さを向上させる訓練を行いました。能力が向上してきています。もう一度病棟で評価してみてください。

ここがポイント!

介護福祉士の視点

患者さんは1日のうち3時間はセラピストとリハビリを行い、残りの21時間は病棟で生活をされています。この21時間の過ごし方は非常に重要です。なぜなら、セラピストとのリハビリは時間が決まっていますが、残りの時間の過ごし方次第で、よりADLの改善につながる可能性があるからです。介護福祉士は病室での反復練習を提案したり、生活場面で実際に行えるかどうか一緒に行ってみたりして、病棟生活でのリハビリをサポートします。セラピストに対してもその様子をフィードバックして、より効果的なリハビリへの循環を作ります (左図参照)。そのようにして、「できるADL」から「しているADL」へ、さらには退院後の社会生活の中で行う「するADL」へとつながる自立支援を行っています。



西館 2 階病棟所属
介護福祉士 主任
山田 邦彦

退院後のスムーズな生活へ向けて 分かりやすい介助指導の提供

退院前の家屋調査には介護福祉士も積極的に参加し、生活用品の配置など他のスタッフとは異なる視点でアドバイスを行います。また、独自のパンフレットを使用してお家族への介助指導を行っています。患者さん・ご家族が退院後に困らないよう、気を付けるポイントや介助のコツをまとめて書き加えています。

ここがポイント! 介護福祉士の視点

ご自宅へ退院された後もスムーズに生活が送れるよう、介護福祉士が入院生活中にそれぞれの患者さんやご家族が抱える問題を明確にし、納得してもらえらるまで繰り返し介助指導を実施します。看護師と介護福祉士が中心となって作成した当院独自のパンフレットを活用し、どの職員が担当しても必要な内容が一通り説明できるようにしています。また、パンフレットには患者さんの個別性に合わせて書き込みなども行って、患者さん・ご家族それぞれにとっての困りごとや注意すべきポイントを解消できるようにしています。退院後に分からなくなった場合に振り返りができる点も、ご家族から好評をいただいております。

介護指導用パンフレット

3 方法

1. 患者さんに説明し、必要に応じて写真やイラストで説明します。
2. 患者さんに実際に動作をさせてみます。
3. 動作が正しいかどうかを確認し、必要に応じて再説明します。

ベッド上 (体を起こす場合)

首の後ろに手を添えてあげると、背中が安定します。

ベッド上 (体を起こさない場合)

首の後ろに手を添えてあげると、背中が安定します。

ご自分でケアする場合

首の後ろに手を添えてあげると、背中が安定します。

介助者がケアする場合

首の後ろに手を添えてあげると、背中が安定します。

シーツ等が汚れないよう、顔の下にタオル等を敷いておくとうれしいです。



本館 1 階病棟所属
介護福祉士 主任
小滝 雅博

11
NOV

2021.11 ~ 資格取得・受賞



看護師
▲坂根 亜紀

摂食・嚥下障害看護の分野で、熟練した看護技術及び知識を用いてあらゆる場で看護を必要とする方に水準の高い看護を実践できる認定看護師として認定されました。

摂食嚥下看護認定看護師

看護師
▲渡邊 賢一

栄養及び水分管理に係る薬剤投与に関連についての研修に参加し、修了証をいただきました。



特定行為研修修了証



理学療法士 (リハビリテーション 所長)
▲本田 賢次郎

訪問リハビリテーションに必要な知識と技術を持ち、多職種協働のチームで良質な訪問リハビリを提供できる認定訪問療法士として認定されました。

認定訪問療法士

8
AUG

2022.8.15 ぴよぴよ園出身 岡謙介君 甲子園出場

第104回夏の甲子園に、当院職員のご子息で院内保育所「ぴよぴよ園」2007年卒園の岡謙介選手が、広島県代表盈進高校の投手として出場しました。



▲ 甲子園で投球する様子

祝 第104回全国高校野球選手権大会 甲子園出場おめでとう!
盈進高校野球部3年 岡謙介選手 (ぴよぴよ園2007年卒)

8
AUG

2022.8.4 西リハ花地蔵 お性根入れ

当院西側にあるRehab Garden (リハガーデン) に、お地蔵様が設置されました。当院へお越しの際は、お願いごとを胸にお参りされてみてください。



▲ お性根入れの様子

▲ ハロウィン時の西リハ花地蔵

お性根入れの様子は、ホームページの西リハ情報箱から動画でご覧いただけます。

西リハ
情報箱



11
NOV

2022.11.4 ホームページリニューアル &患者さん向け無料 Wi-Fi 開始

病院の情報や院内の雰囲気をお伝えしやすいように内容を見直し、リニューアルしました。タブレットやスマートフォンにも対応しています。



また、患者さん向けに無料Wi-Fi サービスも開始しました。病室や食堂などで無料Wi-Fiをお使いいただけます。



※ 医師やスタッフの肩書き/氏名は掲載時点のものであり、現在は変更している可能性があります。 ※ 筆頭発表者・執筆者のみ表記しています。
※ DR:医師 PT:理学療法士 OT:作業療法士 ST:言語聴覚士 RM:リハビリマネージャー NS:看護師 CW:介護福祉士 CP:公認心理師 RD:管理栄養士

外部講演

- 2022.5.24 痙縮フォーラム
回復期から見たボツリヌス療法 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.6.2 老健局老人保健課 職員向け勉強会
訪問・通所リハビリテーション利用患者の地域生活と専門職の役割 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.6.12 2022年度(第12期)回復期セラピストマネージャー認定コース
回復期リハビリテーション病棟の歴史と意義 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.6.18 2022年度回復期リハビリテーション協会 管理栄養士研修会 講演1
回復期リハビリテーション病棟におけるチームアプローチと疾患管理 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.6.24 -25 第59回 日本リハビリテーション医学会学術集会
合同シンポジウム9 回復期リハビリテーション医療 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
合同シンポジウム18 脳卒中リハビリテーション医療体制の充実と課題 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.7.1 GSK Spasticity Web Conference 2022
痙縮に対するボツリヌス療法の最適化を考える～エビデンスと経験から～ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.9.3 -4 第35回 中国ブロック理学療法士学会
事例から学ぶ～エビデンスと臨床の架け橋～ 松下 信郎 (PT・主任)
- 2022.9.8 令和4年度自立支援型ケアマネジメント基本研修(基礎知識編)
軽度認定者等に必要運動機能改善の視点～リハビリ専門職の立場から～ 岡 光孝 (OT・地域支援RM)
- 2022.9.14 2022年度 第14回 師長研修会
回復期リハビリテーション看護師の教育と育成を考えよう 坂野 ゆかり (NS・看護介護部副部長・病棟病院長)
- 2022.9.16 第9回 日本ボツリヌス治療学会学術大会 シンポジウム1
未来に向けての治療戦略 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.10.1 第11回 リスクマネジメント研修会(WEB オンデマンド)
みんなで取り組む感染対策 白岡 幸子 (OT・教育部門会議主任)
KYT(危険予知トレーニング) 杉本 真理子 (NS・副院長・看護介護部部長)
- 2022.10.12 令和4年在宅医療・介護連携(多職種連携)推進会議
摂食嚥下の他職種連携 荏原 幸恵 (ST・副主任)
- 2022.10.28 ゼオメイン下肢適応追加1周年記念講演会
痙縮治療はどこから始めるべきか?～新しいボツリヌス毒素製剤の使用経験をふまえて～ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)

学会発表

- 2022.6.23 -25 第59回 日本リハビリテーション医学会学術集会
経皮的椎体形成術後の隣接椎体骨折に早期保存療法が奏功した症例 江崎 祥太 (DR)
- 2022.6.24 -25 第23回 日本言語聴覚学会
時間の計算に難渋したガストロマン症候群症例 小野 典子 (ST)
- 2022.7.10 -24 第52回 中国四国リハビリテーション医学研究会/
第47回 日本リハビリテーション中国・四国地方会
くも膜下出血術後の痙縮に対する拡散型体外衝撃波の効果
—シングルケースによる検討— 渡邊 匠 (PT・副主任)
- 2022.9.23 -24 第28回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 シンポジウム
保健医療に貢献できる摂食嚥下治療について 渡邊 光子 (ST・主任)
- 2022.9.24 -25 第4回 日本ステイムレーションセラピー学会学術大会 in 鹿児島
慢性片麻痺患者の上肢痙縮に対する拡散型体外衝撃波の効果 上森 契梧 (OT・副主任)
- 2022.9.30 -10.1 リハビリテーション・ケア合同研究大会 若小牧 2022
回復期リハビリテーション病棟における自室内での転倒受傷事故
予防に向けた取り組み 中臺 久恵 (PT・副主任)
- 老健通所リハビリ(6-7時間)における飛沫感染による新型コロナウイルスの感染への対策の報告 河野 晃大 (CW)
- 介護老人保健施設花の丘におけるセンサーコール適正化への取り組み 平松 達也 (PT)
- 歩行者椅子自立後チェックリスト導入の効果 福江 亮 (PT・RM)
- 窒息予防に向けたミールラウンドの効果 中屋 伶太 (ST)
- 2022.10.15 -16 第20回 日本神経理学療法学会学術大会
回復期脳卒中後片麻痺患者の足関節痙縮の経時的変化について 渡邊 匠 (PT・副主任)

専門雑誌・書籍

- 2022.3.10 日本転倒予防学会誌 第8巻 第3号 pp.27-31
転倒転落に対する当院の取り組み～システム変更に至った事例紹介と活動性向上の工夫 福江 亮 (PT・RM)
- 2022.3.31 日本ステイムレーションセラピー学会誌 第3巻 1号
pp.26-33
脳卒中後上肢麻痺患者に対するボツリヌス療法と集中的作業療法の併用による上肢機能改善効果と大脳皮質活動へ与える影響について 玉代 浩章 (OT・主任)
- 2022.4 回復期リハビリテーション病棟入院患者に対するボツリヌス療法と作業療法 漆谷 直樹 (OT・RM)
- 2022.4 回復期リハビリテーション病棟機関誌 2022年4月号 第21巻 第1号
巻頭言:回復期リハ病棟の進むべき道 チームの総合力で重症者対応を 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.5 (公財)日本医療機能評価機構 満足度・やりがい度 活用事例集 vol.31
質改善の取り組みと人材育成～「理念教育」と「リスク対応」を中心とした職員教育～ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.6.30 高次脳機能研究 High Brain Function Research 42巻 2号 pp.8-12
失語症者向け意思疎通支援事業の展開
—広島県における支援者の育成・活動について— 沖田 啓子 (ST・リハビリ部顧問・一般社団法人広島県言語聴覚士会・広島国際大学総合リハビリテーション学部リハビリテーション学科)
- 2022.7.1 Monthly Book MEDICAL REHABILITATION No.276
2022年7月増刊号 回復期リハビリテーション病棟における疾患・障害管理のコツ Q&A—困ること、対処法—
pp.1 編集企画にあたって 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
pp.7-12 <疾患管理> 脳疾患の管理 てんかん発作の診断、対応と治療は? 松本 敦仁 (DR)
- pp.66-69 <疾患管理> 脳卒中後の大腿骨骨折の管理 脳卒中後の転倒による大腿骨近位部骨折症例の管理・対応は? 木下 翔司 (DR・東京慈恵会医科大学リハビリテーション科・診療委員)
- pp.86-94 <疾患管理> 骨粗鬆症の管理 回復期リハビリテーション病棟における骨粗鬆症性椎体骨折の現状と対応は? 佐々木 正修 (DR)
- pp.110-114 <疾患管理> 薬剤管理 睡眠薬の転倒リスクと高齢者への使い方は? 小原 和久 (薬剤師・薬剤科長)
- pp.133-137 <障害管理> 歩行障害の対応 歩行自立に向けた評価とリハビリテーションはどう行うか? —バランス、歩行速度、耐久性— 松下 信郎 (PT・主任)
- pp.153-156 <障害管理> 肩手症候群の対応 肩手症候群に対する治療法は? —その有効性及び投与量など— 江崎 祥太 (DR)
- pp.178-184 <障害管理> 高次脳機能障害の対応 高次脳機能障害への対応は? —検査や診断法— 江崎 祥太 (DR)
- pp.191-196 <障害管理> 高次脳機能障害の対応 帰宅願望が強い高次脳機能障害者への対応は?—離院・離棟対策— 福江 亮 (PT・RM)
- 2022.7.10 リハビリナース 第15巻 4号
pp.6-13 回復期リハ病棟で求められる退院支援 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- pp.50-59 回復期と生活期の間で、情報伝達が不十分ではありませんか? 武田 由紀 (NS・外来師長)
- 2022.7.20 月刊 Nursing 2022.8 Vol.42 No.9 pp.32-38
1. 病院における転倒予防チーム ②回復期病棟～西広島リハビリテーション病院の取り組み～ 福江 亮 (PT・RM)
- 2022.10.15 JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 第31巻 11号 (通巻374号)・2022年10月号 pp.1082-1088
新型コロナウイルス感染症とリハビリテーション医療
10. リハビリテーション病棟における COVID-19 クラスタ対応と対策 岡本 隆嗣 (DR・病院長)

チーム紹介!

施設管理課 清掃

病院内の清掃を担当しています。

心掛けていることは？

患者さんの入院生活の妨げにならないよう、安全に配慮しながら清掃しています。患者さん、利用者さん、職員など、当院を利用する全ての人がストレスなく快適に過ごせる環境を作ることが必要です。私達は、それら皆さんがきれいで気持ちいいと感じたり、働きやすいと感じたりしてもらえそうな清掃を常に目指しています。

清掃を通して感じる病院の雰囲気や魅力は？
患者さんご利用者さん、職員がすれ違う時に誰とでも気持ちのいい挨拶をしあうところが、当院の魅力だと思います。



やりがいを感じる時はどんな時ですか？

清掃している時に、患者さんやご利用者さんから「いつもきれいにしてくれてありがとう」と声をかけていただいたり、アンケートで「病室やトイレがきれいで清掃が行き届いていた」とコメントをいただいたりすると励みになり、やりがいを感じます。

最後に

今後、皆様に快適にご利用していただけるよう努めてまいります。何か気になる点がありましたら、お知らせいただきましたら幸いです。

医療法人社団朋和会 基本理念

信じ合い、明日を拓く

私たちは「信じ合い、明日を拓く」という言葉を基本理念としております。

「信じ合う」という言葉は、患者さんと職員との信頼関係とともに、職員間の信頼関係をも含んでおります。

理想的なリハビリテーションは、ひとりの患者さんを中心に全スタッフが取り組むチーム医療が原点です。

たしかな信頼関係のもと、全職員が心をひとつにして治療に取り組めばそこには安心感が生まれ、患者さんに、より大きなご満足いただけるものと信じております。

「明日を拓く」という言葉は、現状に満足することなく未来へ向けて挑戦したいという私たちの願いです。

超スピードで進化する医学の流れをしっかりと見定め、フロンティア・スピリッツを胸に、どんな困難にも立ち向かっていきたいという気持ちをこの言葉で表現しました。

「信じ合い、明日を拓く」この言葉をいつも大切に考え、患者さんやご家族の皆さん、受診者の皆さんにご奉仕し、地域社会の発展に寄与していきたいと心より願っております。

医療法人社団 朋和会
初代理事長 岡本則昭

医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院

〒731-5143 広島市佐伯区三宅6丁目265番地
TEL (082) 921-3230 (代表)
FAX (082) 921-3237 E-mail wel@welnet.jp
URL <https://www.welnet.jp/>

★ 理事長・病院長：岡本 隆嗣



★ 広島中心部より車で約30分 ★ 広電楽々園駅より車で約10分 ★ JR五日市駅南口よりバスで15分

